

令和5年度 小林市立須木中学校 学校関係者評価書

4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要

学校経営ビジョン

須木中学校区の教育目標である「確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、未来をたくましく生き抜く児童生徒の育成」の達成するため、「生徒のためにやる・自分のためにやる・みんなで作る」を基本に教職員の資質向上を図り、「知」「徳」「体」「食」を重点目標とし、生徒に「夢」と「誇り」をもたせ、地域から信頼される学校を目指す。

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善	自己評価	関係者評価	学校関係者のコメント
知育	○ 基礎・基本の確実な定着と、自ら学ぼうとする態度の育成				
	1 基礎・基本の定着 ・ タブレット活用 ・ 須木のUPタイムの実施 ・ 学びたい度(4項目)の向上	・ 各教科での単元末テストや須木のUPの時間に英語コンテストなどを実施し、基礎・基本の定着率を上げることができた。 ・ 授業の定着の場面でタブレットを活用し、基礎問題などの復習に取り組んでいる。今後はオンライン教材も増やしていきたい。 ・ 文章問題に対応できるよう、読解力の向上を図る必要がある。	2.8	3.0	・ キーボードのタイピングやエクセルの操作など、将来すべての仕事に不可欠です。競い合わせながらも楽しく習得させてもらいたい。 ・ 読解力はすべての教科・学力に直結するので中学生の内に向上させてもらえると良い。 ・ タブレット活用、オンライン教材の時代に対応できるように指導されていると思う。 ・ 読解力の向上にはさらなる指導を望みます。 ・ 少人数授業で生徒一人一人への指導がなされていると思う。自分の強みを伸ばしてもらい自信につながっていると思う。 ・ 今は英語は必要な時代、検定率100%への挑戦を目指してほしい。
	2 わかる授業の実施 ・ 一人一研究授業の実施で授業力向上 ・ 個別最適な学びの実践 ・ 英検への挑戦→50%以上が受検し、5級以上所得	・ 研究テーマであるユニバーサルデザインを意識した授業を展開することで授業内容の焦点化や視覚化を図ることができた。 ・ テスト結果の分析を行い、学力の把握を行った。今後、分析をもとに生徒一人一人の強みを伸ばせるよう個別最適な学へとつなげていきたい。 ・ 英語検定は70%が受検し5級は半数以上所得した。傾向として意欲的に検定に臨む生徒が増加している。	3.0	3.6	・ 職場体験ではレストランで体験している2人の男子生徒を見学し、接待等に頑張っている様子がかがえた。学習成果発表会でも体験した事をしっかりと伝えることができていたので自分で体験するというのは大事なことだと思う。 ・ 地域との連携を深めて学習に取り入れることは素晴らしいと思う。 ・ 年々、タブレットの活用が増え定着しているように感じた。校外学習も充実しており、多くの体験ができたと思う。
3 家庭・地域及び関係機関、企業等との連携・協働 ・ 体験活動・校外活動の実施 ・ こすもす科の授業の充実 ・ キャリア教育の充実	・ 砂防ダム見学、農業体験学習、職場体験学習など、外部機関と連携した取組を実施し、対話的な学びを推進することができた。 ・ こすもす科は概ね年間指導計画通りに計画的に取り組んだ。地域の方々の協力をいただき、こすもす科の学習内容は充実していた。地域との連携を深める取組を推進することでふるさとに対する愛着を深めさせたい。	3.4	4.0		
徳育	○ 人権感覚の向上と生命尊重意識の育成				
	1 いじめや不登校の予防と早期発見、素早い初期対応 ・ きめ細やかな教育相談の実施 ・ 学校、保護者、関係機関との連携	・ 年3回の教育相談、月1回のいじめアンケートは定期的に行っている。実施後、気になる点についての共通理解が教師間で図られている。 ・ 保護者や関係機関と連携し、生徒が自己肯定感を持てるよう、ウェルビーイングな教育環境を作るための生徒指導を展開していきたい。	3.7	3.7	・ 心を育てるという意味で、朝の登校は荒天以外は自力での登校を目指してはどうだろうか。 ・ 相手の立場になって考える大切さをわかる為にも保護者・関係機関との連携や細やかな生徒指導が必要だと思う。 ・ コロナも5類に移行して、祭りやイベントに参加している姿を見るにあたり、他者とのふれあいで成長していくのは素晴らしいことだと思う。 ・ 戦争など、世界のさまざまな報道を見ている子どもたちに平和の大切さを実感してほしい。 ・ 道徳の授業で学んだことは成長の段階で大切なことだと思う。 ・ いじめアンケートは本音を書ける工夫も必要だと思う。 ・ 祭りやイベントの地域活動をこれからも続けてほしい。
体育	○ 基礎体力・運動能力の向上と健康生活習慣の定着				
	1 健康増進・基礎体力の向上 ・ 虫歯治療率100% ・ 感染症対策の徹底	・ 教室の換気等を確実に実施できている。年間を通してインフルエンザ感染者は1名、コロナ感染者は3名で、それ以上の感染の拡大もなかった。 ・ フッ化洗口の実施や歯磨き指導を徹底しており、習慣化できている。継続して取り組んでいきたい。 ・ 虫歯の治療については治療率80%である。未治療の生徒については継続して治療を勧める。	2.9	3.3	・ 虫歯の治療率は大事だが、症状がなくても定期的な点検は行っていただきたい。 ・ ゲーム、動画視聴には時間帯などにルールを自分で決めさせてはどうだろうか。 ・ 少人数という事もあるが、感染症の拡大予防に努められていると思う。 ・ 虫歯予防100%に向けて取り組んでほしい。 ・ 情報モラル教育は家庭での指導が一番だと思う。講座等を通じて意識を高めてほしい。 ・ 日常の中で災害はいつ、どこで何が起こるかわからないので、避難訓練の中で実際の避難に生かせる学びを継続してほしい。 ・ 講話等を通じて薬物依存の危険を知る事は大切なことだと思う。 ・ メディアに関する指導は定期的にするべきだと思う。スマートフォン、ゲーム機、様々な端末で繋がることの便利さだけでなく、リスクがあることを子どもに親が同じ認識で話せる環境も必要だと思う。
	2 メディアに関する指導の実施 ・ 情報モラル教育の推進 ・ 情報モラル教室の実施	・ こすもす科で情報モラル学習を実施し、ネットトラブルなどの問題について考えさせることができた。小学校とも連携を深めて指導していきたい。 ・ 小・中学校の保護者を対象に家庭教育学級で情報モラル講座を実施し、啓発を図ることができた。 ・ 家庭での長時間にわたるネット動画の視聴など、未だにメディアコントロールができていない生徒が見られるため関係機関による情報モラル講座を定期的実施する。	2.6	2.7	
3 実践的な安全・防災教育の実践 ・ 避難訓練の実施 ・ 交通安全教室、薬物乱用防止教室の実施	・ 避難訓練は御池少年自然の家の協力で煙りハウス体験などを実施し、実際の避難にいかせる学びが得られた。 ・ 小林市警察署の生活安全課の協力を得て交通安全教室を実施し日常生活での自転車運転のスキルアップにつながった。 ・ 薬物乱用防止教室では学校薬剤師の方に講話をいただき、薬物依存の危険性を学ぶことができた。	3.4	4.0		
食育	○ 食育の推進と望ましい食習慣の形成				
	1 食育の推進 ・ 弁当の日の充実 ・ 食に関する授業の実施	・ 事前指導を含めて弁当の日は計画的に実施できた。「みやざき弁当の日」にも応募し、入賞する生徒もいるなど、事後の取組も充実できていた。 ・ 食に関する授業は家庭科を中心に実施している。今後は外部講師も活用しながら、より食への関心を高めていきたい。	3.4	3.7	・ 朝食を食べてこない理由はどこにあるのか、夜更かし、朝起きられない、食材がない、食欲がない、腹痛になるなど、様々な要因があるかもしれない。そのあたりを調査して個人で解決できない場合は社会福祉協議会やむらづくり協議会と連携を図ってみたい。 ・ 自分で弁当を作る大変さ、楽しさを持ちながら食に対する感謝の気持ちが高まればと思う。 ・ 外部講師による授業の試みが素晴らしいと思う。違った意味の関心があると思う。 ・ 朝食摂取率100%は凄いです。早寝・早起き・朝ご飯、常に耳にする言葉です。 ・ 食事のマナーは大人になっても気にするところですが、好き嫌いをなく、正しい箸の持ち方で食事ができるよう、家庭との連携に努めてほしい。 ・ アレルギー反応発生時の対処に関して事故のないよう取り組んでいってほしい。 ・ 「みやざき弁当の日」への応募、そして入賞は素晴らしい。食事のマナーは家庭でも気をつけるべきだと改めて感じた。
	2 望ましい食習慣の形成 ・ 朝食摂取率100% ・ 食事マナーの徹底	・ 朝食は一部の生徒で朝食を食べてこない日もあったが、保健室だよりで保護者への啓発を図り、1月からは摂取率が100%になっている。 ・ 食事のマナーについては、常時指導を行っている。マナーの一つである箸の持ち方については、家庭との連携が必要である。ほぼ毎日残食はなかったが、好き嫌いのある生徒が多いため、食に対する感謝の気持ちをもっと向上させる手立てが必要だと感じる。	3.0	3.0	
3 食物アレルギーへの対応 ・ 事故0件をめざす	・ 職員研修で学校薬剤師に来ていただき、食物アレルギー反応発生時について対処法を研修し、エピペンの使用法等の確認ができた。 ・ アレルギーを持つ生徒を把握し、給食時や調理実習時に確認しながら事故のないよう取り組んでおり、事故の発生を0にすることができた。	3.9	4.0		

次年度の方向性についての校長所見
 ・ 知育面ではこれまでの取組を継続しながら、読解力の向上を含め基礎学力の向上を図り、英検等の資格取得や各種コンクールへの応募など、生徒の力を伸ばす取組を充実させていきたい。
 ・ 徳育面及び体育面では、これまでの取組をしっかりと継続していくとともに、情報モラルやメディアリテラシー教育の強化や、ソーシャルスキルの向上など、生徒指導面の充実を図りたい。
 ・ 食育面では、アレルギーへの対応をしっかりと行いながら、弁当の日をはじめ、様々な取組を充実させていきたい。